

2013/3/15

MiTA

水島ポートニュース

Mizushima International Trade Association

Vol.

47



特 集

進む水島港の機能強化

～水深12m耐震強化岸壁は平成25年度供用に、玉島西航路は平成25年4月から180m暫定供用に～

Contents

- ◎新会長挨拶(伊原本隆太知事)
- ◎水島港の機能強化
- ◎神原汽船10周年感謝状授与
- ◎JFEフェスタ出展
- ◎県木連へのポートセールス

「生き活き岡山」の実現を目指して ～水島港の発展をMITAの皆様と共に～

水島港インターナショナルトレード協議会会長

岡山県知事 伊原木 隆太



早春の候、会員の皆様におかれましては
ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、

私は、昨年の岡山県知事選挙により知
事として県政を担わせていただくこととな
り、また併せて水島港インターナショナルト
レード協議会会長に就任いたしました。

16年にわたり本県の発展に尽くされた
石井知事からその重責を引き継ぎ、改め
て身の引き締まる思いであり、県民の皆様
方の幸せのため、また郷土岡山県のさらな
る発展のため、全力を尽くす決意を新たに
したところでございます。

「失われた20年」とも呼ばれる経済の低
迷など、我が国全体が閉塞感に覆われ、政
治・経済が激しく揺れ動いている今、これ
らの変化に素早く対応するためには、前例
踏襲を是とすることなく、変わらなければ
なりません。

公選知事としては本県初の民間出身者
である私は、「民間の自由な発想」と「県民
の視線」を大切にしながら、スピード感を
持つてこのような変化に即応していきたい
と考えております。

そして、これまでに築き上げられた成果
や基盤を生かしながら、本県をより魅力
的な地域として発展させ、企業で言えば
株主である県民の皆様、その果実を配当
として還元することで、全ての県民が明る
く笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現を
目指してまいります。

そのために、まず産業を振興して岡山を

元気になります。山陽自動車道、瀬戸中央
自動車道などの高速道路をはじめ、発達し
た交通網を持ち、中四国のクロスポイントで
ある本県の強みを生かして、県内企業の競
争力を高めるとともに、今後の成長を担
う優良企業を誘致するなどの取り組みに
より、雇用の場の確保と県民所得の向上を
図ってまいります。

産業を振興させるためには産業基盤の
充実が不可欠であり、岡山県全体の50%
以上の製造品出荷額を占める水島コンビ
ナートが立地し、全国第6位の取扱貨物量
を誇る水島港の機能強化と利用促進は大
変重要です。

近年、港湾を取り巻く状況は国際海上
貨物における急速なコンテナ化、船舶の大
型化、中国や韓国などに見られる港湾運
営の民営化および大型化による「港湾化
など、大きく変化しております。

水島港の向かうべき方向として、ハード
面においては、生産拠点の水島地区と物流
拠点の玉島地区をダイレクトに結ぶ新高
梁川橋梁、来年度供用を予定している水
深12m耐震強化岸壁を含む国際コンテナ
ターミナルの拡張、玉島西航路の拡張など
の港湾機能の強化を最重点課題として取
り組み、その整備効果をできるだけ早く水
島港を利用する方々に還元していきたいと
考えております。

また、水島港は昨年度、国内で唯一穀
物と鉄鉱石の2品目で、国際バルク戦略港
湾に選定されており、資源・エネルギー・

食料などの安定的かつ安価な供給の実現
を目指し、国や民間企業との連携を進め
ながら航路の増深を図ってまいります。

ソフト面では、現在、水島港国際コンテナ
ターミナルにおいて民の視点による港湾施
設の運営を行っておりますが、今後、他の
公共埠頭へ範囲を拡大することで、公共
埠頭群としての一体的かつ効率的な運営
を促進し、ユーザーにとって使いやすい港
づくりを進めてまいります。

さらに、産業の成長を促すため民間の
ニーズをよく把握した上で、「ハイパー&グ
リーンイノベーション水島コンビナート総合
特区」による規制緩和を推進し、水島港の
利便性を最大限引き上げ、輸送効率の改
善を図っていくこととしており、これらの施
策を合わせた総合力により水島港をさら
に発展させてまいりたいと思っております。

水島港の利用拡大と機能充実のため
には、国内外へのポートセールス、国への
要望、県民の皆様への周知など、官民の
力を合わせた取り組みが大変重要とな
ってまいります。

私自身は、若さと自由な発想により、臆
することなくチャレンジしてまいりますの
で、会員の皆様方にはどうか、水島港の発
展と本県の産業の振興に引き続き力強い
ご支援とご協力を賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。

平成25年度中に水深12m耐震強化岸壁供用開始、4月から玉島西航路が航路幅180m暫定供用

（着々と進む港湾整備の進捗状況を紹介）



水島港では、近年の大きな流れである貨物船舶の大型化、物流の効率化や環境志向の高まりに対応するため、港湾機能の強化へ向けて大型整備が進められており、平成25年度中に水深12m耐震強化岸壁の供用開始を予定し、4月からは玉島西航路の航路幅が150mから180m(暫定)に拡張される等、着々と進む機能強化整備の進捗状況を紹介します。

また、これらの国の事業採択にあたっては、MITAにおいても岡山県や倉敷市とともに国に対して強く要望を行い、またその後も事業の早期完成を目指して要望を重ねているものです。

事業① 水深12m耐震強化岸壁

（いよいよ平成25年度供用開始(予定)）
近年、経済のグローバル化や東アジアの経済成長に伴い、国際海上輸送においてコンテナ取扱量の増加、船舶の大型化が進んでいる。

水島港においても、平成7年から始まった外貿コンテナ取扱量は、平成13年には6万5千TEUと伸び、さらに平成23年には10万8千TEUと、10年前に比べ約1.7倍に増加している。

このような外貿コンテナ貨物の増加や船舶の大型化に対応するため、水島港国際コンテナターミナル6号埠頭の、水深10m岸壁の南側に、新たに水深12m耐震強化岸壁(延長240m)と背後に4.8haのコンテナターミナルを整備するとともに、新たにガントリークレーンを1基増設して、合計3基で運用し、荷役時間の短縮を図る。



国において新規事業化されたものである。完成すれば2車線の道路と自転車歩行者道路を有し、玉島地区の臨港道路と水島地区の国道430号とを結ぶ、全長2564m、全幅11.5mの橋梁となる。

現在、玉島E地区やハーバーアイランドと水島地区を直接的に結ぶ橋梁はなく、上流の水玉ブリッジラインや霞橋などへ迂回することを余儀なくされており、更に水玉ブリッジラインは通行料無料化後、交通量が倍増し、慢性的な渋滞が発生している状況である。新橋梁には、港湾内物流のロス解消、輸送コストの低減や、道路周辺環境の改善が期待されている。

【進捗状況】

現在、水島側の遊水池箇所を設置される13基の橋台・橋脚の内、10基の橋脚が完成し、橋台1基が工事着手されている。

高梁川の渡河部においても、設置される全部で19基の橋脚の内、1基の橋脚が完成し、6基の橋脚が工事着手されている。

また、玉島側についても海上部仮橋の施工が進んでおり、設置される12基の橋台・橋脚の内、3基の橋脚が工事着手されている。

これにより全線において工事着手されていることとなり、今後は目に見えて進捗を感じる事ができるようになるだろう。

橋桁を設置し全線成するのは、平成28年度の見込みである。



事業③ 玉島西航路

（平成25年4月から航路幅180m(暫定)に!!）
玉島ハーバーアイランドの西側に位置する玉島西航路は、自動車専用船やコンテナ船などが利用している水島港の主要な航路の一つである。

現在の航路は平成5年に供用開始されたものであり、水深7.5m、幅員150mの航路は、供用開始当時支障はなかったものの、近年の大型化された船舶では、航路幅が狭いため寄港出来ない船舶や、行き会い回避などの航行規制を余儀なくされる船舶が出てくるなど、航路幅不足のため効率的な物流に支障を来しており、航路の拡幅が喫緊の課題であった。

【進捗状況】

予定地外周を囲む延長1952mの護岸である。

工事は岡山県において進められており、平成20年8月から着手し、平成25年度中に護岸の締め切りが完了予定である。現在は、直轄工事の新高梁川橋梁の橋脚の掘削で生じる発生土や玉島西航路の浚渫土の処理等に利用されている。

今後、玉島東航路の浚渫などにより埋立てが進み、将来的には46ヘクタールの土地が造成され工業用地及び緑地の設置が予定されている。



（平成25年度には計画幅員250m化が完了する予定である。）
今後は航路拡幅の利点を最大限活かしていく利用促進の取り組みが重要となってくる。



事業④ 浚渫土処理護岸

（平成25年度中に護岸の締め切りが完了予定）
浚渫土処理護岸は、航路や泊地の浚渫などを行った際の膨大な土砂を受け入れるためのもので、玉島ハーバーアイランドの南側の埋め立て

将来の水島港発展の石杖となる港湾機能強化の進捗状況が、計画・準備段階から直接目の当たりにできる段階になってきており、早期の完成にさらに期待が高まっています。

なお、今回ここで紹介した水島港のハード面における機能強化の他にも、国際バルク戦略港湾、ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区、港湾運営会社制度の導入など、明日の水島港の発展につながる施策が並行して進行中であり、今後これらの事業施策との相乗効果も期待されます。

神原汽船(株)本社表敬訪問 国際定期コンテナ水島港航路開設10周年知事感謝状を授与



平成24年11月20日、岡山県土木部港湾課奥山課長、倉敷市文化産業局商工労働部藤原部長、日本通運(株)倉敷支店中村支店長(MITA理事)、水島港国際コンテナターミナル(株)板野代表取締役社長(MITA理事)及び事務局の10名で、神原汽船(株)本社(広島県福山市)を表敬訪問しました。

神原汽船(株)はMITAの会員であり、平素からMITAの活動に大変ご理解・協力をいただいています。そして、平成14年10月に水島港と中国上海、大連等を結ぶ国際定期コンテナ航路を開設され、昨年10月に開設から10周年を迎えられたことから、城晁男代表取締役社長に知事感謝状と記念品を贈呈し、感謝の意を表すと共に、水島港の今後一層の利用促進をお願いしました。

国際コンテナ航路については、昨今の目まぐるしく変化する世界経済情勢の中、長期にわたり安定的に航路を維持することは大変企業努力を要することであり、またその航路の存在は海運のみならず地域の経済活動にも大きく貢献されています。

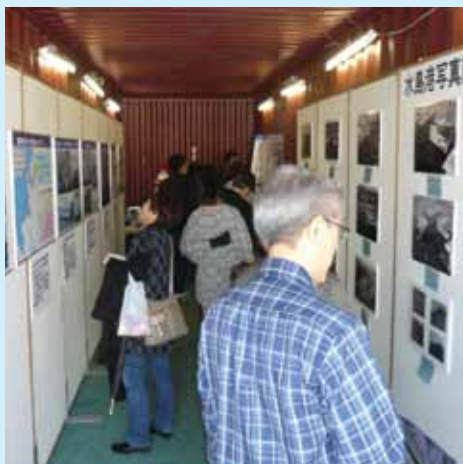
水島港開港50周年記念協賛行事 JFE西日本フエスタinくらしきへ出展

平成24年11月3日、MITAでは、岡山県と共催してJFEスチール株式会社西日本製鉄所(倉敷地区)で開催された「JFE西日本フエスタinくらしき」に出展しました。

JFEフエスタへの出展は4回目となりますが、今回は水島港開港50周年記念協賛行事として参加し、水島港へ寄港する船社と代理店のご協力により、40フィートコンテナ(約12m)をJFEフエスタ会場に持ち込み、コンテナ自体を見てもらうとともに、コンテナ内部を展示場としました。

コンテナ内では、50周年にちなんで昭和30年代以降の水島港の発展の様子を集めた水島港写真展、コンテナターミナルを再現したジオラマ、定期コンテナ航路紹介などのパネル展示の他、テント内において

荷役体験機によるアトラクションを行い、大変多数の方にご来場いただきました。MITAでは今後とも様々な機会を利用して、広く一般の方にも水島港の状況を理解していただけるよう活動してまいります。



岡山県木材組合連合会勉強会において 水島港のポートセールス

平成24年11月13日、メルパルクOKAYAMAにおいて、(社)岡山県木材組合連合会(会長:豆原直行)による第2回「中国の木材需要動向等勉強会」が開催されました。この勉強会は木材製品の海外輸出に関する勉強会であり、今回の勉強会では、木材製品の海外輸出についての講演や県産材販路推進協議会(会長:豆原直行)の5企業が、8月に県産ヒノキの販路拡大を目指し、第4回上海国際木造エコ住宅博覧会に出展した報告などがありました。

MITAは、将来の取扱いの可能性を見込み、この機会をお借りし、木材組合関係者の方々への水島港のPRとして、水島港の利用状況、定期コンテナ航路、外貿公共埠頭における施設等の説明及び利用促進をお願いしました。



Cover Photo
今号の表紙

来年度の供用開始を目指して工事が最後の追い込みに入っている玉島ハーバーアイランド6号埠頭です。

